

# 震災後の松川浦におけるアサリの資源動向

## 1. 背景

平成23年3月に発生した津波により、松川浦のアサリ資源は壊滅状態になりました。直後から実施している資源調査で平成25年及び平成29年に高水準でアサリ稚貝の発生が確認されました。

しかし、平成25年級群の資源量は平成30年以降大きく減少し、平成29年級群は成長が極めて遅く、発生から2年経過した令和元年時点で漁獲サイズに達していませんでした。

水産資源研究所では、この2群の資源動向を追跡するとともに、今後漁獲加入が見込まれるH30年以降年級群の資源状況を調査しました。

## 2. 材料と方法

平成30年から令和3年にかけて、年1回松川浦内の主要漁場(図1)を含む18地点で、杵取りでアサリを採取しました。採取したアサリを地点別に殻長及び重量等を測定し、群別に分布密度を求めました。この分布密度に漁場面積を乗じ年別・群別に松川浦全体の資源量を推定しました。

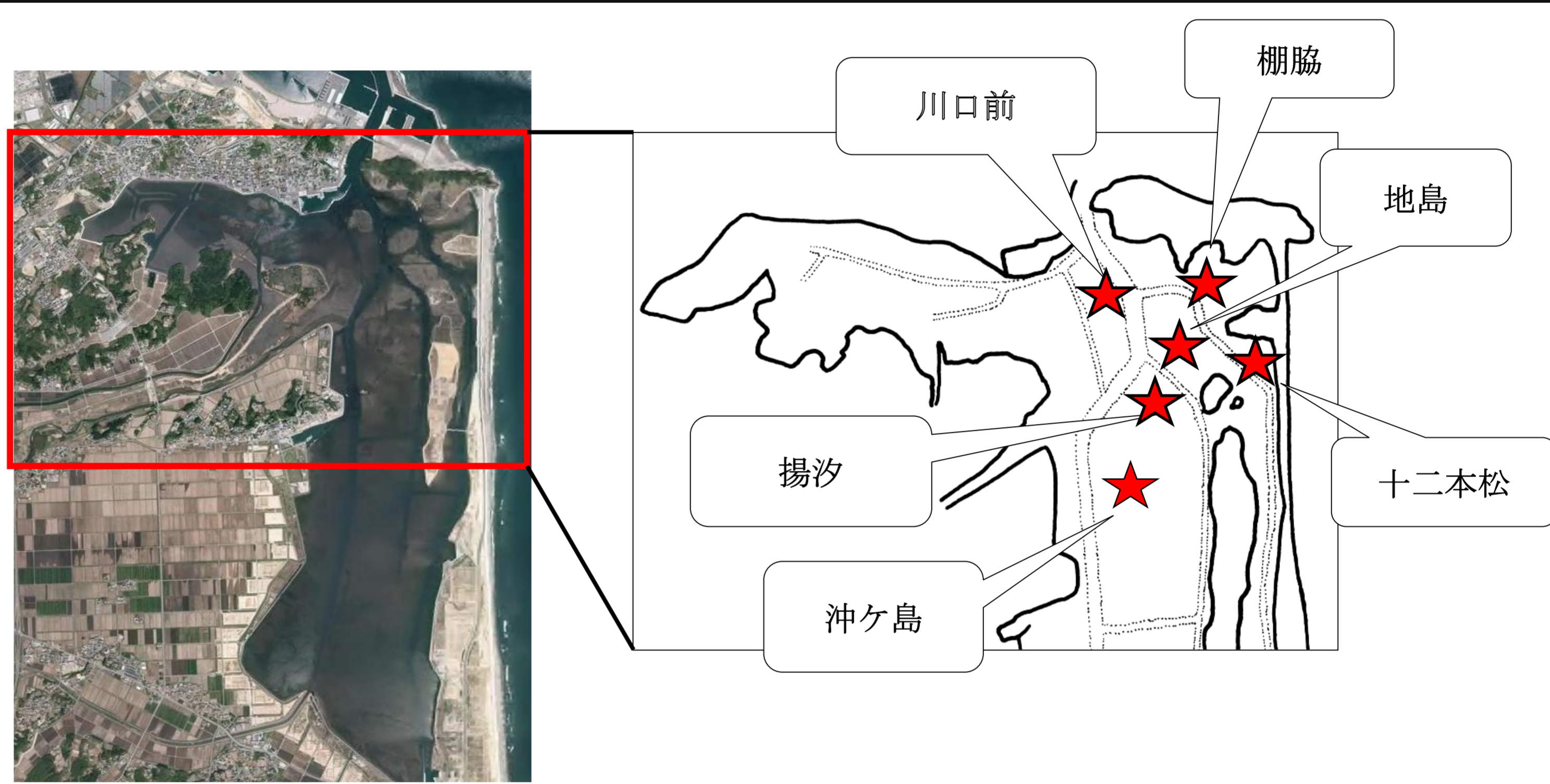


図1 調査地点(主要漁場)

## 3. 結果

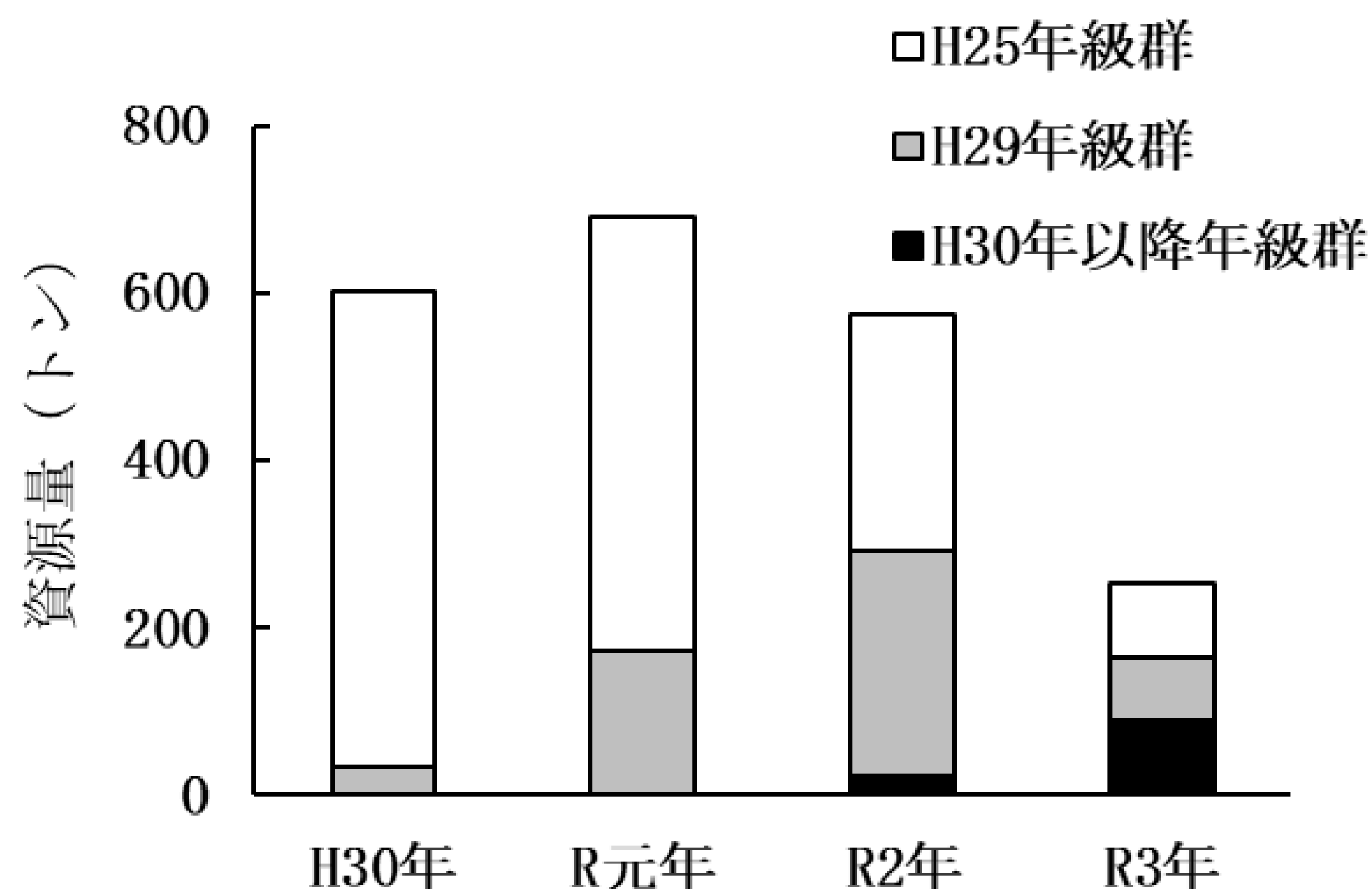


図2 年級群別の推定資源の経年推移

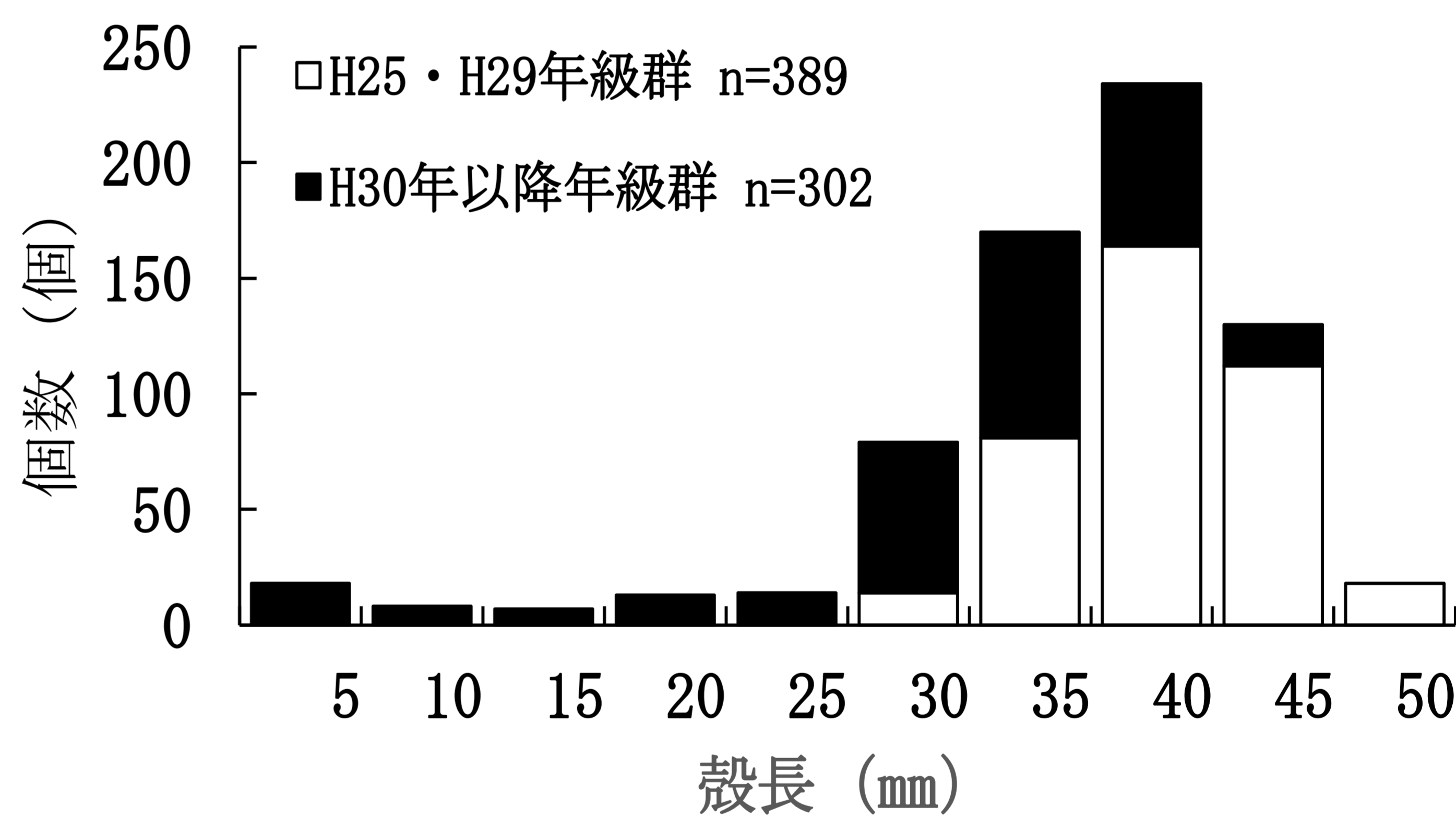


図3 年級群別の殻長組成

- 松川浦全体のアサリ推定資源量は、令和元年約692トン、令和2年約574トン、令和3年約252トンで減少傾向にあります。特に平成25年級群の推定資源量は、令和元年520トンから令和3年88トンまで大きく減少しました。
- 平成25年及び平成29年級群が殻長35mm以上の75.6%を占めています。また、平成30年以降年級群では35mm以上が58.6%を占めており、26.2%を占める殻長25mm～30mmのものは、成長に伴い令和4年漁期中に漁獲加入することが見込まれます。

## 4. まとめ

資源利用に際しては、漁獲サイズに達している大型のものから漁獲し、さらに、利用頻度の低い漁場の資源を利用していく必要があります。

加えて、資源維持のため資源減少の主な要因であるサキグロタマツメタによる食害を防止することが重要であり、成貝及び卵塊駆除を徹底する必要があります。